

「可能性を求めて」

(第二十七回)

先日、スウェーデンから知的障害者の楽団が来日した。徳島のコンサートで、人々に感銘を与えた素晴らしいバイオリン

演奏。養護施設やバイオリン教室の子供達も一緒に合奏し、交流会でも心が触れ合えた。

言葉の壁を越え人生を豊かにする音楽のパワーに、目頭を押さえる聴衆や家族、スタッフも少なくなかった。

さて、今話題の映画「able(エイブル)」を、東京で観ることができた。昨年、毎日映画コンクール記録文化映画賞を受賞したものの、19

歳の少年が、日本を離れてアメリカでホームステイ。人々と交流し成長していく姿を追ったドキュメンタリーだ。言葉も習慣も違う外国で、二人はそれぞれの可

能性を広げていく。周囲の社会の暖かいまなざしが印象深い。音楽に合わせて即興で踊る場面では、素直な心や生命の息吹が感じられた。ありのまままで自然

な描写が感動を呼ぶ。「障害者はできないのではない。

社会が彼らをできないと思つて、できなくさせているのだ」と。

本映画は通常の興行制作ではなく、1万人以上の募金で作られたもの。

原動力となったのは、障害者の日常スポーツ活動を支援するスペシャルオリンピックス日本である。

徳島でも「able」を上映する会実行委員会が組織され、ボランティアが東奔西走している

(<http://www.k-tops.co.jp/able/>)

FAX088-611-6614)。8月6日

から11日にかけて阿南、北島、脇町、徳島での試写会が決定された。可能な限りこの映像と感動が広く届いてほしい。(医学博士・内科医師)

健康のススメ

板東 浩